

令和5年度 第3回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 令和6年2月19日（月） 午後2時から午後3時30分まで

場 所 長野市ふれあい福祉センター4階会議室402

出席者 委 員：齊藤会長、霜田委員、竹腰委員、多田井委員、樋口委員、小山委員、柳澤委員、山本委員、北原委員、黒坂委員、渡邊委員

長野市：事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）鈴木部長、柴田課長、千野補佐、前田補佐、五明補佐、鶴亀主事

教育委員会事務局文化財課 細井係長

資料

資料1-1 令和6年度文化芸術振興事業（案）の概要

資料2-1 令和6年度 長野市子ども文化芸術賞 募集要項

資料2-2 長野市子ども文化芸術賞 選考要領

資料2-3 令和6年度 長野市子ども文化芸術賞 候補者一覧

資料2-4 令和6年度 長野市子ども文化芸術賞 候補者選定資料

資料2-5 長野市子ども文化芸術賞 歴代受賞者一覧

資料3 令和5～7年度「部活動の地域移行」の推進に向けて

資料4 令和6年度 組織・機構の見直しについて

次 第

1 開会

2 長野市文化スポーツ振興部長あいさつ

3 長野市文化芸術振興審議会会长あいさつ

4 議事

（1）令和6年度 文化芸術振興事業の概要について

（2）令和6年度 長野市子ども文化芸術賞受賞候補者の選定について（非公開）

（3）中学校部活動の地域移行について

（4）その他

機構改革について

庁舎美術館について

会議録（概要）

（事務局）<議事(1)について説明>

質疑なし

（事務局）<議事(2)について説明>

個人16名、3団体を候補者として選定

（事務局）<議事(3)について説明>

（委員）

文化部活動の地域移行については今後どのように受け皿を作つていけば良いのかが課題である。スポーツの場合は日本代表のような目標があつて、組織的に普及活動を盛り上げていこうという下支えや枠組みがあるが、合唱や吹奏楽、演劇にはまだできていない。学校だけでは対応することが難しく、長野市教育委員会や文化芸術課の方々の協力をいただきながら受け皿づくりを行つていただきたい。誰が受け皿団体の運営を行つていくのか、人材や金銭面の課題もある。今まで当たり前のように中学校で担つてきた部分を地域の方に引き継いでいくという歴史的な大きな転換になるが、現在模索をしている状態である。しかし、長野市は全県的に見ても早い段階で行政と関わっている部分では先行しているような印象でありがたいと感じている。

（委員）

受け皿についても、例えば受け入れる子供の年齢や期間を指定したうえでご提案いただければ、受け皿になつていただけるところも出てくるのではないか。今は漠然としていて少し難しいと感じる。

（委員）

地域の中で知識のある方が学校事業の中に先生と一緒に入り、絵画や美術などを指導していただくような形で行つることもありうるのではないか。しかし、地域によっては指導者がいない場所もあるため、ステレオタイプに全部そろえることは難しい。戸隠中学校のそば部のように特性も考える必要がある。地域に開かれた学校運営をしていくという方針があるため地域の知識のある方に学校に入つていただくというのは一つの考え方としてあるのではないか。中山間地域はある程度の部の選択が必要になるが、地域ごとに実情に沿つて部活をセレクトできるようにし、地域のポテンシャルを活用していくことを考える必要がある。

（委員）

地域の公民館にはいろいろな講座がある。何年も同じ講座を受講している方々もおり、そ

のような力をつけた方々に地域の中学校に入っていただき、指導者とまではいかなくとも一緒に活動ができないかお願いをしたことがある。学校の方からもそのような方々に声をかけていただければ一緒に活動できるのではないか。特に公民館は地域に密着したものであるので中学校とも連動しやすいのではないかと感じる。スポーツの面で言うと先日、信州ブレイブウォリアーズの試合に小学生が無償で招待していただいた。あのようなテレビで見るのとは違い、臨場感のある現場においてみんなで盛り上することは子供たちが試合を見る中で関心を持ち、自分自身の目標を持てるという点で大変ありがたかった。文化芸術の面でも指導者というのは大変大事な部分なのではないかと思う。色々な方面から子供たちに関わる人を育成していくことも必要なのではないかと思う。

(委 員)

中学校の部活動がこれからなくなるという現状を聞いてすごくショックである。私が実際中学校でバレーボールに1番力を入れて頑張っていた時期があり、そこで得たものも多かった。絶対に部活がなくなってしまうことは防ぎたいと思っており、現状をみんなが知つていれば保護者の方も絶対に力になってくれる。ママ友の中にはマルチな方が多く、忙しい中でも主婦や保護者を味方につける事が出来れば部活動の継続ができるのではないかと思っている。

(委 員)

学校の義務教育では音楽とか芸術についてあまり重視されていない。根本的な問題は文化芸術の必要性である。受験に必要な5科目だけ一生懸命やればよいという保護者も結構いる。

(委 員)

選択肢が狭いと子供たちがかわいそうである。なおかつ親も仕事をしていて、時間的な制約の中でバックアップできる親とそうでない親もいる。そのため、地域に全部お願いをすることになった場合、ミスマッチが多く出てくる。話を聞いていて難しいなと思った。昔とはずいぶん変わったのだと再確認した。

(委 員)

公民館活動を盛んにやっているところを見ていただくと分かるが、大人が一生懸命にやっている公民館では子供も割と入っていっている。例えば獅子舞は地域によっては公民館活動が盛んである。公民館で活動していくべきはある程度の継承が出来るのではないかと思っている。問題点は昔と違って育成会が非常に弱体化してしまったことである。育成会自体がもうできないような状況になっている。理由としては共働きの家庭が増えていることも関係しているのだろうと思う。

(委 員)

文化芸術の部活動の地域移行について、改めて現実を突きつけられたように感じる。美術についていえば、隣の城山小学校と連携してアートクラブの活動を県立美術館で担当して

いる。吹奏楽部だと楽器を使うとか場所が必要とか専門的な面が必要となる。部活の種類によってそれぞれ考えていく必要がある。

以上